

このような相談が寄せられています…

【中学生Aさんから、いじめについて窓口相談】

Aさんから窓口相談の予約電話が入り、同日に保護者とともに来所しました。「クラスの特定の人(Oさん、口くん)から嫌がらせを受けている」という相談でした。

子どもの気持ちを聴くことを第一にしていますので、最初に、Aさんと面談を行い、起きていることの具体的な内容とそのことに対するAさんの気持ちを丁寧に聴き取りました。

Aさんからは、①自分から今の担任に話すのは気が進まない。小学校のときにも同じようなことがあって担任に話したが、私の言うことはぜんぜん信じてくれなくて、あなたにも問題があるということもいつも言われて学校に行くのが辛かった。②子どもの権利相談センターでたくさん話しを聴いてもらって、気持ちが軽くなれば、それでいい。③いつかOさんと口くん「やめて!」ともう少し強く言えるようになりたい。という気持ちが語られました。

③については、いろいろな場面のロールプレイングをしました。

保護者との面談では「担任に話すのが最善策だと思っている」ということが語られましたが、子どもの気持ちを尊重しながらやりとりを重ねていきました。

次第にAさんが、保護者が担任と話し合うことに理解を示すようになったので、保護者が担任に事情を伝えました。担任は、早速に関係の生徒たちを指導してくれ、Oさんと口くんからはAさんへの謝罪がありました。

その後も経過を観察し、必要な支援の有無等を判断するため、定期的な相談を続けました。

保護者から「Aにとっては、あの日学校を休んででも相談に行ったことが、良いきっかけになった。いまも小さいざこざはあるものの、前よりも自分なりに切り替えができるようになってきており、比較的うまく回っている。」という報告があり、保護者と学校の迅速で適切な対応が功を奏しました。

【中学生Bさんから、心身の悩みについて電話相談】

Bさんから、「皆から嫌われていて、苦しい。誰も話を聞いてくれない。何もかもが嫌になった。」という電話相談がありました。

最初は“死にたい! 苦しい!”の連発で、泣きじゃくり、会話になりませんでした。じっくり話を聴いていくと、友人関係もさることながらお母さんとの関係がBさんの心身を不安定にさせていることがうかがえました。

しかし、お母さんとセンターが連絡を取り合うことをBさんは希望しませんでしたので、Bさんと何回もやりとりを重ねました。Bさんの気持ちを受容しながら、さまざまな提案を行い、葛藤と選択の体験をしてもらった中で、次第に前向きな思考が芽生え、言動にも変化が出てきました。

学校では応援してくれる先生もおられて、学習にも積極的に向えるようになり、友達やお母さんと本音で向き合えるようにもなりました。1年の間に将来の夢を語り、進路を決め、不安に負けずに受験に臨むことができました。

【中学生Cさんから、家族関係についてメール相談】

Cさんから、両親の離婚に係るさまざまな心配事についてメール相談がありました。

Cさんは、家族関係のトラブルから学業生活や心身にも影響が見られていました。

メールでのやりとりを続けているうちに「親権や面会交流について、自分なりにインターネットで調べてみたけど、どの情報が正しいのかわからない。」という不安が語られました。そこで、Cさんが疑問や不安に思っていることに専門的な立場からお答えする面談を提案し、子どもの権利擁護委員(※1)に直接話を聞く機会を設けました。

その後もメールや面談を行いながらCさんの心配事に寄り添った結果、「対応策が見つかり不安が解消された。学校には休まず通っている。」と報告がありました。

※1 子どもの権利擁護委員
子どもの権利について知識と豊富な経験をもっている専門家

青森市子どもの権利相談センターだより

平成二十九年九月
青森市子どもの権利
相談センター発行



青森市子どもの権利相談センターの様子を紹介します!



センター入口です。
靴を脱いで、中に入ります。



センターです。
ここで、電話相談やメール相談を受けています。



相談室です。
面談はここで行います。